

留学体験記

オーストラリア・グリフィス大学での留学生活

JSAF 2025 年秋派遣 最終留学レポートより

「日本の大学では、授業で仲良くなった友達とご飯に行くほど仲良くなることはなかったけれど、オーストラリアでは留学生同士で仲良くなって、お互い助け合いながら、より深い関係が築けたと思います。」

派遣先大学	グリフィス大学(Griffith University／オーストラリア・ブリスベン) ネイサンキャンパス(Nathan Campus)
在籍大学	神戸市外国語大学 外国語学部 国際関係学科 3 年
留学形態	休学留学(語学研修＋学部授業)
派遣期間	2025 年秋派遣

※本体験記は派遣生の最終留学レポートをもとに再構成したものです(保存用・氏名入り。公開時には氏名を削除してください)

1. 留学の目的と達成

留学の目的は、スピーキング力の向上と、外国の大学で学ぶ経験をすることでした。この目的は達成できました。

2. 授業と学び

学部では、ビジネス・マーケティング分野を中心に 4 科目(各 10 単位)を履修しました。

科目	単位	成績	内容と感想
Consumer Psychology (2004MKT)	10	良	消費者購買行動の中で、消費者と商品や広告が心理的にどう関わり、互いに影響し合っているかを学びました。オンライン上でグループレポートをつくる時は連携がとても困難で苦労しました。最後の課題は、消費者購買行動の段階ごとに学者の理論を実際の購買ペルソナにあてはめて分析するもので、応用力を試されていると感じました。
Disruption in the 4th Industrial Revolution in Asia (2028IBA)	10	普通	第 4 次産業革命や AI が、アジアにどのような混乱と成長をもたらしたのかを学びました。日本は AI 産業で他のアジア諸国に後れをとっているイメージがありましたが、近年は産業用ロボットに AI を搭載するプロジェクトが大企業同士の協力で進められていることを知り、日本のロボット業界の未来が楽しみになりました。
Social Entrepreneurship (2044IBA)	10	普通	社会課題の解決を目的としたビジネスの立ち上げ方を学びました。多くの人が実際に解決したいと思っている問題に目をつけ、さらに持続可能な利益とインパクトを生むビジネスモデルをつくることの難しさを知りました。先生も優しく面倒見のいい方で、授業はとても面白かったです。
Advertising & Integrated Marketing Communication (2029MKT)	10	悪	企業が目的別にメディアと広告活動をどのように統合しているのかを学びました。マーケティング専攻でない人にはかなり重い内容で、課題は実在するスタートアップ企業に IMC のリコメンデーションをするというもの。最終プレゼンには、その企業の CEO が見に来ていました。

※成績はレポート提出時点のもの。一部の課題は採点待ちでした。授業形式はオンラインまたは対面のワークショップ。クラス規模は 7 人の少人数から 70 人規模まで科目によりさまざまでした。

■ がんばった課題

エッセイ(Consumer Psychology): 消費者行動理論の分析に、CSR・サステナビリティ分析とマーケティングのリコメンデーションを加えたレポートです。各段階の分析を統合してベストなマーケティング提案をすることが大変でしたが、自分が授業を通して学んできたことを反映できた気がしました。

プレゼンテーション(Advertising & IMC): 「IMC recommendation for Nudgie」というテーマで、オーストラリアのスタートアップ企業へのマーケティング戦略の提案を行いました。短い持ち時間の中で、自分のパートで伝えるべき情報をスライドと発言にまとめることが大変でしたが、チームのみんなと何度も話し合い、発表の練習をした思い出がすごく心に残っています。

**JSAF**一般財団法人 JSAF
Global Academic Education

■ 日本の授業との違い

- 学生が意見を発言することに何のためらいもない
- 授業への理解や、なぜそう考えたのかを自分の言葉で説明することを教授が求めている
- 実践的な授業が多い

■ 語学研修を経て学部へ

学部開始前には語学学校で学びました。語学学校ではオーストラリアの大学での学び方を予習でき、文章の種類によって筆者の意見(主要な内容)を見極める読み方や、段落ごとの文章構成のルールなど、学部の課題に直結するスキルを身につけられました。語学学校は少し義務教育を感じさせる部分があり毎日緊張感がありましたが、大学では自分で自分を管理するのが当たり前になります。

3. 英語力の伸びと工夫

英語力の伸びは「やや感じる」というのが正直なところでした。フラットメイトには「最初の頃より話せるようになったね」と言ってもらえました。一方で、オーストラリア人の集団の中の会話は、スピードの速さやスラングも相まって、ついていくのがなかなか難しいと感じています。

スキル	苦労した点	工夫した点
リスニング	語学学校とは違い、大学では教授のオーストラリア訛りが強かったり、同級生の国籍も多様でそれぞれのアクセントがあったり、非常に速く話す人がいたり、聞き取りが困難な場面が始めはたくさんありました。	聞き取れなかったときは(会話のテンポにもよりますが)すぐに聞き返して、わからないままにしないよう心掛けました。また、バスなどで他の乗客が話している会話を、ポッドキャストの代わりとして意識的に聞いていました。
スピーキング	rとlの適切な発音の区別の重要性和、伝えたいことをネイティブらしい言い方で分かりやすい英語にするにはどうすべきか。この2点が常に頭の中にありました。	ネイティブや英語が上手なメキシコ人の友達との会話やテキストの中で、彼らが使っている言い回しを真似して、実際にネイティブの前で使うことを繰り返しました。
リーディング	授業前に膨大な量を読み込まなければならなかったことがありました。	語学学校時代に習った、文章の種類によってどこが筆者の意見(主要な内容)かを見極める方法を使っていました。
ライティング	2,000字や3,000字のレポートでのアカデミックライティングに苦労しました。	語学学校で習得した、段落ごとの文章の構成ルールに則って書きました。

■ 日々の工夫

できるだけ英語だけしか話せない環境に身を置くようにしました。語学学校でオーストラリアの大学での学び方を予習し、大学ではたくさんのネイティブとの交流から、より自然な言い回しやボキャブラリーを習得しました。それでもネイティブの集団の中で会話についていくのはいまだに難しく、十分とは言えませんが、ある程度は改善されたと思います。

4. キャンパスライフ

■ キャンパスと街の様子

キャンパスは緑が多く、夕方から夜にかけてはポツサムに遭遇することが多かったです。24 時間開いている図書館には、試験期間中とてもお世話になりました。カフェも複数あり、ベトナム料理のお店と、一番手前にあるカフェのトースティーがお気に入りでした。毎週木曜日は何かしらイベントがあって、フリーミールを得られることも多かったです。

大学のある場所はのどかな郊外で、ダウンタウンまではバスで 40 分ほど。キャンパス内外とも治安は良好でした。おすすめスポットはガーデンシティと、Mount Coo-tha の夜景です。

■ 住まいと食事

滞在先は、ホームステイ 2 軒と学生寮でした。1 軒目のホストファミリーはシングルマザーと幼いお子さん 3 人のご家庭で、会話は食事のときぐらいでしたが、2 軒目は食事のときの会話が絶えず、ビーチや夜景に連れて行ってくれたりと思い出がたくさんあり、今でも連絡をとっています。ホストマザーは元シェフで、ご飯がめちゃくちゃおいしかったです。

寮では、騒音問題などでフラットメイト間の関係がぎくしゃくすることもありましたが、何とか乗り越えて生活でき、フラットメイトとは毎日話しています。食事は、ホームステイ中は平日の昼のみ自炊かコンビニのおにぎり・カフェのパン、寮では朝・夕は自炊、外食をすることもあり、アルバイトのある日は賄いを食べていました。

■ 1 週間のスケジュール

曜日	過ごし方
火～金	大学(授業・課題)
土・日	アルバイト

■ 交友関係と息抜き

授業では韓国人のお姉さんと、インド人の 1 年生と仲良くなり、一緒に課題をやったり、ご飯に行ったりしました。フラットメイトはほぼオーストラリア人でフレンドリーな子が多かったのですが、18 歳ということもあり、年齢のギャップから若さについていけないこともありました。日本人との付き合いはほぼなく、語学学校から一緒だった友達とたまに会うぐらいでした。日本の大学では授業で仲良くなった友達とご飯に行くほど仲良くなることはなかったけれど、オーストラリアでは留学生同士で仲良くなって、お互い助け合いながら、より深い関係が築けたと思います。

一番の息抜きは、寝ることと、美味しいものを食べること。日本の家族とは月 1 回、友達とは 2 週間に 1 度ほど、電話や LINE で連絡をとっていました。

■ 最も良い思い出・大変だった思い出

良い思い出: フラットメイトたちとモートン島でシュノーケリングをして、ウミガメの上を泳いだこと。

大変だった思い出: 寮に引っ越してから大学が始まるまでの期間、新しい環境と人間関係に慣れるのに苦戦して、とてつもない孤独感を感じたこと。

5. 課外活動と旅行

大学内のクラブ活動やスポーツには参加せず、休み中はアルバイトと旅行をして過ごしました。「ミートアップ」という国際交流イベントで友達づくりをしていました。おすすめのイベントです。

6. 費用と持ち物

JSAF 留学プログラム費以外でかかった費用の目安は次のとおりです。

項目	金額(目安)
国際航空券代(往復)	1,000 ドル
現地での旅行費用	1,500 ドル
個人的な諸費用(こづかい、買物代など)	2,000 ドル
携帯電話料金	44,000 円
ミールプラン以外の食事代	約 5,000 ドル
教材費(語学研修・学部)	0
ヘルスセンター使用料	0
その他	家賃

■ 持ち物について

持って行った方がよかったものは、ヒートテックなどの冬用の服。ブリスベンは 5 月末から意外と寒いです。ノートパソコンはめちゃくちゃ使います。予習、ノートをとる、Teams での会議、課題、リサーチ、RSA (酒類提供の資格)の取得にも使いました。



7. 留学を終えて

留学を通して成長したと感じるのは、許容できる価値観が増えたことです。オーストラリアは思っていたよりも自由で chill な国で、その緩さの中で自分を保つのが少し苦しいと感じることもありました。語学学校は毎日緊張感がありましたが、大学では自分で自分を管理するのが当たり前で、少し気が緩んでしまっていた気もしています。

これからは、何かしら英語をコミュニケーションの手段として使って働ける企業に内定をもらえたらいいなと思っています。

8. 後輩へのメッセージ

「日本人を含めアジアからの留学生が少ないので、ネイサンキャンパスはおすすめです。ブリスベンは5月末から意外と寒いので、ヒートテックなど冬用の服を持って行くといいですよ。」

9. 派遣先大学へのメッセージ

Thank you for offering me a lot of support to learn here, I sincerely appreciate you guys!!

■ JSAF のサポートについて

出発前オリエンテーションは役に立ちました。留学して生活するうえでの必要事項や、大事になってくる心構えを学べたからです。

JSAF 派遣生の最終留学レポートをもとに作成(保存用・氏名入り。公開時には氏名を削除してください)。